



整理番号 DP000181

発送番号 017717

発送日 平成15年 1月28日 1 / 2

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2000-329341
起案日	平成15年 1月20日
特許庁審査官	清水 稔 8525 5W00
特許出願人代理人	宮▼崎▲ 主税 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

### 理 由

#### 理由1

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記1の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

#### 記

請求項1～17に係る発明について

##### 1. 特開平10-233645号公報

引用例1第【0015】段落を含む引用例1の全記載からは $d=0.5$ と推定される。また、引用例1第【0023】及び【0034】段落には $Ta$ について $h/\lambda=0.0200$ 、 $W$ について $h/\lambda=0.0150$ とすることが記載されている。

これらの数値は本願の請求項1～17に記載された規格化膜厚条件を満たしている。

なお、請求項7、8、10、11に記載された形式の弾性表面波装置は引用例を示すまでもなく周知である。

また、バターニングを「反応性イオンエッチングまたはリフトオフプロセス」により行うことも、それらが既に技術用語として通用しているように、普通に知られていることである。

#### 理由2

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。



記

請求項1の「横モードによるリップルが0.5 dB以下となっているメタライゼーションレシオ $d$ 及びインターデジタルトランスデューサの規格化膜厚 $h/\lambda$ が所定の範囲に制御されている」とは「横モードによるリップルが0.5 dB以下となっている」ことと同義である。なぜなら、横モードによるリップルが0.5 dB以下となっていれば、自動的に「メタライゼーションレシオ $d$ 及びインターデジタルトランスデューサの規格化膜厚 $h/\lambda$ が所定の範囲に制御されている」ことになるからである。

横モードによるリップルが少ないほど望ましいことは常識だから、請求項1の上記箇所は何ら発明を特定していない。

請求項13についても同様である。

よって、請求項1, 13及びこれらの従属項に係る発明は明確でない。

以上

-----  
先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野      I P C 第 7 版              H 0 3 H 9 / 1 4 5
- ・先行技術文献      特開平 1 1 - 2 9 8 2 9 0 号 公 報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

お問い合わせ：特許審査第四部伝送回路 内線 6 4 4 1